

第 11 回 生駒市景観形成基本計画策定懇話会 会議録

1. 日時 平成 25 年 12 月 20 日（金） 15 時 00 分～16 時 00 分
2. 場所 生駒市役所 401・402 会議室
3. 参加者 久座長、下村氏、嘉名氏、大原氏、福本氏、植田氏、大西氏
4. 欠席者 樽井氏
5. 事務局 山本部長、中井課長、川端課長補佐、高谷係長、松田主査、阪本主任、山下
（以上、みどり景観課）
坂井、依藤（株式会社地域計画建築研究所）
6. 会議公開 公開
7. 傍聴者数 なし
8. 市長あいさつ

みなさまには、平成 21 年度から生駒市都市計画マスタープラン及び景観形成基本計画策定委員会の委員としてご就任いただいて以来、5 年近くにわたり生駒市の景観行政の礎の構築にご尽力をいただきました。景観法ができ、景観行政団体を目指し取り組みを始めたが、何分初めてのことで暗中模索でした。この基本計画は、みなさまから適切なアドバイスをいただき、読み物としても興味深いすばらしいものができたのではないかと思います。景観というのは、まちの雰囲気印象付ける大きな要因で、景観の持つ意味は大変大きいと感じています。例えば、マイホームを購入するとき、子育て支援等の施策も重要だが、まちなみが綺麗で雰囲気の良いところがいいと思う人は多い。また、生駒で生まれ育つ子どもたちが、将来進学や就職で生駒を離れたとしても、ふるさとの景色は心象風景として持ち続けるものだと思います。

本市で宅地開発をする事業者や住宅を建てられる方にも、この基本計画のデザインパターンを活用しながら行政指導を行い、関西一魅力的な住宅都市となれるように引き続きがんばっていきたい。今後も本市の景観づくりにお力添えをお願いします。ありがとうございました。

9. 議事内容

(1) パブリックコメント手続きの結果について

事務局説明（資料1）

座長：今後、検討を要するという内容もあるので、進み出してからまたご意見をいただければと思う。

(2) 生駒市景観形成基本計画の案について

事務局説明（資料2-1、2-2）

座長：議論を重ねてきたが、最終段階となる。意見があれば願います。

参加者：委員名簿では、社団法人奈良県建築士会会長となっているが、現在は一般社団法人となっているので変更をお願いします。

座長：巻-5に“懇話会参加者から”ということで200字程度の文章を掲載したいと考えている。期限は1月中で感想や今後の期待など内容は自由で。

事務局：再度、メールでお知らせするが、ご協力をお願いしたい。

参加者：表紙は重要なので、座長に相談し良い表紙にしていきたい。

座長：名前は景観形成基本計画で良いか。愛称のようなものをつけるか。

参加者：サブタイトルのようなものがあったらいい。

座長：サブになるのか、それをメインにするのか、いろいろやり方は考えられる。

事務局：一応、いくつか案を考えている。

座長：ここで決定しなくてもいいので、みなさんの反応を参考に最終的に考えていただければと思う。

参加者：仲間と基本計画について話したが、非常に内容が濃く専門家がつくったというのが第一印象ということだった。最後のページがこれからの展開として魂が入っていく部分だと思う。総合施策の推進と書いてあるが、どういう仕組みで関連する計画と整合性をとり、実際に進展させていくのか。例えば、総合計画なら部署ごとにアクションプランがあり、評価会議で進捗状況を知るといった形でまわっている。それがいいというわけではないが、景観の総合的な施策を長年かけて取り組んでいく仕組みについてお考えになっているのか。

事務局：パブリックコメントの中でも具体的な施策はどうするのかという話が出てきている。生駒市は景観行政団体になって日が浅く、市民の方にはまだ浸透していない。その第一弾として、この基本計画を策定し、景観とはどういうものかということをも市民のみなさんに認識していただくことが最初のステップと考えている。次に、気運が高まり地域などで部分的にでも景観の活動がはじまっていけば、必要な施策の展開や支援制度に

についても考えていきたい。現段階では、具体的なものは決まっていないが、長期的な施策として進めていきたいと考えている。

座長：景観施策の総合的な推進と書いているが、なかなか難しい。環境や協働も総合的な施策である。そういう意味では、横串を刺すものもいくつかあるが、同じようなものが動くということにもなりかねない。いろいろな意味で、まちづくりがうまく動いてきたら、その成果として景観が良いものになっていくと考えたほうがいいのではないか。あまり景観だけで総合施策と言わないほうがいいかもしれない。また、パブリックコメントの中でサロンの話があったが、いろいろなテーマのサロンが増えてしまうことになる。もう少し集まる場所を整理したほうがいい。都市計画でもいこま塾を開催しているが、こちらでは景観をやっている。そろそろ一本化できるものはしたほうがいいと思う。

参加者：率直に大変良い基本計画になったと感じている。ただ、内容が濃い分使いこなすのが難しい部分もあると思う。実際にどうやって使うのか、どこかで試しにやってみるということも今後考えていく方がいいのではないか。例えば、景観形成地区をもう少し増やしていくなど。集落型の地区やまとまりのある住宅地などで、パターンランゲージを使いながら充実させていくということをやしてほしい。

(3) 生駒市景観計画の変更案について

事務局説明（資料3）

(4) 生駒市景観条例の改正案について

事務局説明（資料4）

10. その他

今後のスケジュールについて

事務局説明（資料5）

参加者：概要版は作成するのか。

事務局：作成する。印刷は2月末頃を予定している。

参加者：市民のみなさんに周知することが大事。

事務局：概要版については、当初より増刷し広く配布していきたいと考えている。そのため、本体を来年度にまた増刷する予定である。

座長：手元に基本計画の愛称の案があるが、いかがか。上は漢字が多く、下はひらがなが多いと思う。個人的には、中身が堅いのでやわらかい印象のほうがいいのかと思う。

手にとって読もうかなと思わせるタイトルということが重要。

事務局：これ以外にも何かあれば。

参加者：本編の内容と少しでも絡んでいないと、タイトルだけ考えたように感じるし、タイトルが中身に出てこないというのもおかしい。本編ができていますので、その中の重要なキーワードをタイトルに取り込んでいくというほうが一貫性がある気がする。例えば、“はぐくむ”や“生駒らしい”などのキーワードがある。

参加者：やろうとしているのは、生駒らしい景観づくり。手引き書や指南書を付けるかどうか。

座長：今のお話を聞いて「ともにはぐくむ生駒の景観」というのがひらめいた。まだ間に合いそうなので、思いついたら事務局までお知らせいただければ。

参加者：ホームページに掲載して市民に参加してもらおうということではできないのか。

事務局：期間的に厳しい。

参加者：やわらかい感じになるとそのイメージに合わせて表紙も変わる。

事務局：1月の景観審議会で決めさせていただく。

参加者：サブタイトルにするのか、上にくるか下にくるかもある。

事務局：今は、上にサブタイトルがきて下に基本計画となるのが多い。

座長：私の師匠は、日本エッセイスト賞をもらっているほどの文筆家でもあるが、彼からはできるだけ漢字は減らすようにと言われてきた。読ませるためにはひらがなを多用したほうがいい。また、世の中にインパクトを与えるためにも、新しい造語を入れるとも言われた。

では、全体的に振り返って何かご意見があればどうぞ。

参加者：景観条例の2条について、主語が「良好な景観は～」ではじまるが、他は市や市民ではじまっている。基本理念の場合、「市、市民及び事業者は～」というかたちではないのか。

事務局：「市、市民及び事業者は～」となると義務的になってしまう。景観法自体も「良好な景観は～」ではじまっている。

座長：何をつくるかということであると、「良好な景観は～」が主語になる。

これまで、非常に時間をかけてみなさんにもご意見を賜り、作成させていただいた。おかげさまで、非常に良い計画になった。全国的にも注目されるのではないかと思う。これに基づいて、生駒の景観をより良くしていくことが本来の目的であるので、ここからがスタートである。運用をしっかりといただき、また、できるだけ多くの市民に認知していただき共有していけたらと思う。今後ともよろしく願います。

事務局：本懇話会の開催要項では、開催期間は平成26年3月31日までとなっているが、趣旨である基本計画案をこのような形でまとめ上げていただいたので、本日をもって最終の開催とさせていただきます。ありがとうございます。みなさまからは、本日を含めて、これまで数多くの貴重なご意見をいただきました。座長からもあったように、他

市にも例のないすばらしい基本計画となったと思います。使い方が大切だというご意見もいただき、これからがんばれと言われているような気持ちがします。

本日の意見を反映させていただいた案を持って1月の景観審議会の諮問、2月の都市計画審議会への報告、3月の議会等を経て、4月1日で公表という形で進めていきたい。まだ、サブタイトル等の決定もあるので、最終の確認については、座長にさせていただくことをご理解いただきたい。巻末のコメントについても快くお受けいただき感謝しております。今後ともご指導をよろしくお願いします。ありがとうございました。

事務局：本当に、長きにわたりお世話になりました。すでにいろんなところからいい案ができたという声を聞いており、みなさまのおかげと喜んでおります。使い方についても慎重に検討し、使いこなしていきたいと思います。今後とも、ご指導をよろしくお願いします。ありがとうございました。

以 上